



<p>(1) 進路指導部主導で、第一志望の「行きたい学校」にチャレンジする組織的な指導体制を確立する。</p> <p>(2) 個別面談、三者面談を充実させ、生徒一人一人の進路希望に応じた進路指導を行う。</p> <p>(3) 「進学指導研究校アソシエイト」指定時の取り組みを継続し、迅速なデータ検証を基に分析会等を実施し、教科指導の改善、指導に反映させる。</p> <p>(4) 新卒業生による合格体験座談会や同窓会の協力を得たキャリアガイダンス講座の他、大学訪問等を実施し、希望進路実現に向けた生徒の内発的動機付けを促す。</p> <p>(5) 進路指導部主導により、教科ごとに、計画的、組織的な長期休業日中の講習を実施する。夏季休業中の講習については5日間を1タームとして開講する。</p> <p>(6) 自習室及び進路指導室の充実を図る。</p> <p>(7) 3年間を見据えたキャリア教育全体計画をもとに、公民としての権利と義務を自覚させ、18歳成年制度を視野に入れた指導を行う。</p> <p>(8) HR合宿、学力向上集中講座等を実施し進路指導の充実を図る。</p> <p>(9) TGG（東京グローバルゲートウェイ）を系統的に活用するとともに、台湾への修学旅行、複数校合同のタイへの研修旅行、イングリッシュキャンプ、ニュージーランドへの語学研修、次世代リーダー等海外留学の活用、東京体験スクールの受け入れ等を通じてグローバル人材の育成を進める。</p>	<p>【B】</p> <p>【A】</p> <p>【B】</p> <p>【B】</p> <p>【B】</p> <p>【A】</p> <p>【B】</p> <p>【B】</p> <p>【B】</p>
<p>3 生活指導</p>	
<p>&lt;目標&gt;</p>	
<p>健全な市民を育成するために、18歳成年制度を視野に入れて、組織的な指導体制で、責任ある社会人としての生徒の規範意識の涵養を図る。</p>	
<p>&lt;方策&gt;</p>	
<p>(1) 学校全体で、挨拶、時間厳守等社会人として通用するマナー、ルールを身に付けさせるとともにスマートフォンを適切に利用する態度を育成する。</p>	<p>【B】</p>
<p>(2) 身に付けさせる規律・規範計画及び特別指導の指導計画を基に、生活指導を行う。</p>	<p>【B】</p>
<p>(3) 校内美化を徹底し、教育環境整備に取り組む。</p>	<p>【A】</p>
<p>(4) 自転車の交通ルール・マナー指導を徹底するとともに、危険回避能力を育成する。</p>	<p>【B】</p>
<p>(5) Q-U調査や高校生の意識調査を効果的に活用して、きめ細かい生徒理</p>	<p>【Y】</p>

<p>解に努め教育相談機能を充実させる。</p> <p>(6) 自他の存在及び生命を尊重する態度を育成して、自殺予防対策の教育を進めるとともに、男女平等の精神に基づいて、豊かな男女の人間関係を築けるようにする。</p> <p>(7) スクールカウンセラーと連携して体罰根絶、いじめの未然防止、早期発見・対応を行う。</p> <p>(8) 公民としての権利と義務を自覚させ、主権者教育、消費者教育、租税教育等を充実させるとともに、防災教育の充実を図り、「自助」「共助」の精神を養う。</p> <p>(9) 部活動及び体育の授業を軸に、生徒の基礎体力向上を図る。</p>	<p>【B】</p> <p>【B】</p> <p>【A】</p> <p>【A】</p>
<p>4 特別活動・部活動</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <p>「文化部推進校」として学校行事、部活動等の特別活動を活性化させるとともに、「国際交流リーディング校」として国際理解教育を推進しグローバル人材を育てる。</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>(1) 体育祭、文化祭、合唱祭等の学校行事への取り組みを通して各種のリーダーを育成し、自主的、主体的な活動を推進する。</p> <p>(2) 部活動指導員を活用して部活動の充実を図るとともに、部活動指導方針を明確にして、体罰や暴力的指導や行き過ぎた指導のない計画的な部活動を行う。</p> <p>(3) 部活動顧問と保護者間の連携を図るため、定期的に各部活動保護者会を実施する。</p> <p>(4) メディアリテラシー教育としてのセーフティ教室、薬物乱用防止等の指導を通して、心身共に健全な生徒の育成を図る。</p> <p>(5) 文化・スポーツ等特別推薦の充実に向けた組織的体制を構築し、「文化部推進校」の取り組みを進めて文化部の部活動を活性化させ、一芸に秀でた「知のオタク」を育てる。</p> <p>(6) オリンピック・パラリンピック教育を充実させ、そのレガシーの構築の取組によって「国際交流リーディング校」として豊かな国際感覚を培う。</p> <p>(7) ニュージーランド及び台湾等の姉妹校交流等により、国際理解教育を一層充実させる。</p>	<p>【B】</p> <p>【A】</p> <p>【B】</p> <p>【A】</p> <p>【C】</p> <p>【C】</p> <p>【B】</p>
<p>5 募集・広報活動</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <p>都教育委員会からの各種指定校の取り組みを活用して、学校の特色を積極</p>	

<p>的に情報発信する。</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>(1) ホームページの更新を随時行い、日常の教育活動をタイムリーに情報発信する。</p> <p>(2) 近隣地域との交流を積極的に行い、本校の良さや特色をPRする。</p> <p>(3) 学校要覧は特別支援学校と連携して作成し、スクールガイド等を精選する。</p> <p>(4) 学校内外における学校説明会、学校見学会、授業公開及び塾対象説明会を充実させる。</p>	<p>【A】</p> <p>【B】</p> <p>【Y】</p> <p>【B】</p>
<p>6 学校経営・組織体制</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <p>教育施策や、都教育委員会からの各種指定校の取り組みを活用して、教職員の経営参画意識と協働意識の醸成を図る。</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>(1) 国や都の「働き方改革」の推進を受け、休日の部活動指導や、長時間勤務を減らして教職員の勤務の軽減を図る。学校閉庁日は、長期休業期間中に適宜配置する。</p> <p>(2) 業務の効率化を進め、教職員の一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。</p> <p>(3) 台湾への修学旅行、タイへの研修旅行、オリンピック・パラリンピック教育及び海外姉妹校交流の充実を図り、レガシーの構築を目指して、教職員の国際感覚を培う。</p> <p>(4) 経営企画室の業務進行管理と合理化を進め、経営参画型の経営企画室として機能させる。</p> <p>(5) 教育目標及び学校経営計画実現のために、5分掌の他、3つのプロジェクトチーム（PT）（学力向上、部活動指導、グローバル人材育成）を活用して学校の課題解決を図る。</p> <p>(6) 企画調整会議、職員会議等、会議時間50分以内を目標にし、業務の効率化を図る。</p> <p>(7) 計画的なOJT、校内研修を実施し、教員の人材育成能力及び専門性の向上を図る。</p> <p>(8) タイへの研修旅行は「国際学校間交流リーディング校」として、複数校と連携して実施することで、今後の都立高校間の連携・協同の教育活動の在り方について検討していく。</p>	<p>【A】</p> <p>【A】</p> <p>【B】</p> <p>【A】</p> <p>【C】</p> <p>【A】</p> <p>【B】</p> <p>【Y】</p>

数値目標に対する結果

令和3年度の数値目標項目	4年間の数値動向	目標	結果
1 卒業生の進路決定率	71→85→79→84.4	90%	89.0%
2 センター試験5教科型 受験者数	6→12→6→10	10名	8名
3 国公立合格者	2→0→4→3	5名	2名
4 早慶、GMARCH合格 者数	15→20→21→25	30名	43名
5 長期休業中の講座数	60→109→95→37	100講座	72講座
6 教科ごとの教科研修会	2→3→5→2~5	5回	5回
7 生徒の授業満足度	48.0→56.0→57.0→75.5	80%	81.1%
8 生徒の自宅学習時間	1→1→1→1.5	2時間	1.85時間
9 生徒・保護者の学校満足 度	81.5→83.0→84.5→72	90%	81.6%
10 部活動加入率	96.0→90.0→90.0→85.5	90%	80.1%
11 学校説明会参加者数	3033→3034→2985→1597	3500名	1891名
12 中学校への訪問数	85→85→79→未実施	100件	140件
13 ホームページ1日アク セス数	1000→1100→1100→717	1000件	648件
14 地域との交流	5→5→5→未実施	5回	2回
15 応募倍率（推薦）	3.17→2.86→3.18→2.52	3.5倍	2.70倍
16 応募倍率（一般）	1.35→1.43→1.39→1.17	1.5倍	1.16倍
17 1クラス1日の遅刻者 数	平成31年度から 2→1.8	1名	0.85名
18 スマホ利用時間（勉強で の利用除く）	令和2年度から 2	2時間以下	2時間

【令和3年度の考察】

新型コロナウイルス感染症防止のため、学校行事と海外学校間交流は実施できなかった令和2年度も委員の生徒を中心に準備を続けてきた。この活動を引継ぎ、今年度の学校行事は学年別で実施し、オンラインで海外学校間交流など実施したことが成果である。そのため、自己評価の【Y】項目が減った。このことから、学校満足度が回復に向かった。また、課題であった「授業満足度」も上昇した昨年度を上回った。

令和4年度の課題は部活動加入率の増加と応募倍率の上昇である。